

# 私の一冊

社会福祉学科 安 瓊伊 先生

外山滋比古 著 『思考の整理学』

小鹿図書館 141.5/To79

私がこの本に出会ったのは、大学院に入った年の夏休みでした。一時帰国の途中に空港の書店に寄ってフライトの間に読む薄い文庫本を買ったのがこの本でした。本の帯に書かれている「東大・京大で1番読まれている本」という文句に引っ掛かり、手にとりました。当時の私は自分の研究リサーチクエスションの整理がなかなかできず頭を悩ませ焦っている時期でしたので、本のタイトルをみて「いま読むべき本だ」と直感的に分かりました。飛行機と実家に行く電車のなかで手から離さず読み続けたことを覚えています。読んでみると、なるほどと思われるところが多くあり、その後の自分の考えを整理するのに相当役に立ちました。学び続ける者にとって必読の一冊だと思いましたので、みなさんには学生のうちに読んでおくことをお勧めしたいです。

みなさんは普段から自分の思いや考えを整理し文章に表すことが上手ですか苦手ですか。この本によると、人の中にはグライダー能力(受動的に知識を得る)と飛行機能力(自分で物事を発明・発見する)が同居していて、コンピューターは抜群のグライダー能力の持ち主だそうです。人によって、グライダー能力がより優れたり、飛行機能力が優れたり、違うでしょう。私は本を読みながら自分はどうかのかなと思いましたが、人はこの両方の能力を使いながら学び、何かを成し遂げていると考えました。我らはスマホやコンピューターですぐに検索ができ、情報が山ほど入手できる時代で生きていますので、私たちには知識でなく、オリジナリティが求められていると思います。あふれる情報の中で自分の考えを持つことは、簡単ではありません。人の書いたものを色々読むと、ある考えが自分のものなのか人のものなのか区別がつかないことが多くあります。これは私のなかにもたびたびあることです。しかし、それは人のものであり、自分のオリジナルではありません。研究する者にとってはもっとも警戒しないといけないことで、人のものを使う際には、必ずその出所を明示しなければなりません。

仕入れた情報を自分のものにするには、情報のなかに自分のアイデアや想像力を入れ込んで寝かせて時間をかけて熟成させて創り出す過程が要ります。著者いわく「見つめるナベは煮えない」ので、結論を急がず必要な時間をかけなければ簡単にオリジナリティのある考えは生まれてきません。その努力を惜しまず取り組むことで、自分ならではのものが産声をあげる

のです。本著のなかにセレンディピティという言葉があり、みなさんも聞いたことがあると思います。目的としていなかった副次的に得られる成果を呼ぶ言葉です。その代表的な例が潜水艦の機関音をキャッチしようとした研究からイルカの交信音をとらえたことだそうです。みなさんも似たような経験をお持ちではありませんか。あと1歩で諦めてしまうことが多いらしいですが、諦めると新しいものは得られません。私は諦めたくなるときに自分自身に言い聞かせます、「あと一歩で見つかるかも」と。

では、山ほどある情報をどう整理すれば良いのでしょうか。著者は、頭のなかに色んな考えが転がり考えがまとまらないときには、とにかく書いてみることを勧めています。何か考えが浮かんだときには、書き留めておいて寝させます。その場でメモするくせをつけないとアイデアを逃してしまいかねません。書くことによって少しずつ思考の整理が進むようで、私自身も良く使う方法です。この本で紹介している、書いたメモをノートに整理し、さらにノートをこしらえメタ・ノートへ移していく方法です。そのためには書き直しの労力を惜しんではなりませんが、この整理の仕方に慣れると、自分のオリジナルの考えが生まれる創造的思考の習慣化につながると思います。他に、聞き上手な人を選んで、考えていることを聞いてもらうのも頭の整理に役立つようです。そのときもたどり着いた考えや思考を整理して、紙面など目で確認できるどこかにまとめておきましょう。

私はこの度「私の一冊」を書くため、再び本著を手にししました。初めてこの本を読んだときに思ったように、研究を業としている者だけでなく、生涯学習する者として読む、それも若いうちに読んでおくと良いなと思いました。著者は、いまの学校は、教える側が積極的でありすぎ、親切でありすぎると言いながら、昔の「すぐに教えない」ということが知りたいという意欲を高め、積極的に“なぜ”を問うことができ、逆説的にそれが本人のためになると言っています。私は、みなさんに自分自身の考えや答えを探し悩む時間をめんどくさいと思わないで楽しんでほしいと思います。この本がその助けになる一冊かと思われまますので、ぜひ読んでみてください。